

平成28年度 小田原市立病院 市民公開講座

# 『 放射線治療について 』

小田原市立病院 放射線科 放射線治療室

診療放射線技師

藤森 将史

# 当院の放射線治療

- 年間照射人数は約200人。
- 照射部位は全脳、乳腺、前立腺、食道、喉頭、肺、骨など全般。
- 照射部位の約4割を乳腺と前立腺が占めている。

# 放射線治療とは

## 1.放射線治療の特徴

基本的特徴は、局所療法であり、非観血的であるということ。

- ① 局所療法である。
- ② 機能温存が可能である。
- ③ 化学療法との併用が可能である。
- ④ 高齢者に対する根治的治療が可能である。

# 放射線治療の適応・長所・短所

適応：  
• 早期がんから手術不能の進行がんまで  
• 病変が局所に限局

長所：  
• 機能と形態の損失が少ない  
• 全身への影響は小さい  
• 早期がんの治療成績は外科的治療に匹敵する。

短所：  
• 局所に有害反応が起きることがある

# 放射線治療の方法

- 外部照射  
体外から放射線を照射する方法。
- 腔内照射  
体内から放射線を照射する方法。
- 組織内照射  
体内に放射性核種を埋め込む方法。
- 内用療法  
放射性核種を経口または注射で体内に接種し、目的の部位に集積させる方法。

# 照射回数と期間

有害事象を起こさないために、放射線は数回～数十回に分けて照射します。

具体的には

- 骨：5～10回
- 乳腺：25～30回
- 前立腺：32～36回                      etc...

照射は基本的には、1日1回なので照射期間は1～7週間となります。

# 有害事象(副作用)

## 1.急性期の有害事象

急性期の副作用の最大の原因は、放射線の照射によって起こる組織の炎症性の変化によるものです。

- 頭痛
- 吐き気
- 脱毛
- 皮膚紅斑
- 咽頭の粘膜炎
- 口内乾燥
- 食道炎
- 放射線肺炎
- 息切れ、咳、微熱
- 胃炎
- 胃、十二指腸炎
- 放射線宿酔
- 下痢
- 膀胱炎

急性期有害事象の特徴は、時間が経てば必ず治ります。

# 放射線治療の医療費

初回		※金額は10割計算です
医療機器安全管理料		11.000円
放射線治療管理料 ※1 (いずれか1つ)	単純	27.000円
	中間	31.000円
	複雑	40.000円
放射線治療専任加算 ※2		3.300円
※1,2は治療期間中、2回算定されることもあります。		
		★保険証の負担分をご確認下さい。
毎回		※金額は10割計算です
外来診察料		730円
体外照射 (いずれか1つ)	単純	8.400円
	中間	13.200円
	複雑	18.000円
外来放射線治療加算		1.000円
		★保険証の負担分をご確認下さい。